

評価担当者	課名	氏名	内線
	都市デザイン課	荻野 浩一	1300

コード	VI-17-40	施策名	港湾の整備と活用
施策の方針	交通基盤を整える		
まちづくりの方針	社会基盤が整い、行動力ある市民が暮らすまち(社会基盤)		
施策の目的	交通や物流の拠点施設としての役割を充実させるとともに、地域に親しまれ、多くの人々に活用されるよう、安心して快適な港湾整備をめざします。また、災害発生時には、救援物資の集積地など防災拠点施設としても活用できるよう整備を行います。		
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国、関西を結ぶアクセスを整備し、人の交流を生むために、ハード・ソフト両面から港の魅力づくりを行います。</li> <li>・アクセス道路や背後地のあり方について検討します。</li> </ul>		

<指標>

新規指標	指標名	説明・算式・引用	実績の推移					H31目標値 上段：当初 下段：現在
			単位	H26	H27	H28	H29	
フェリー乗降車の年間台数	港湾統計	目標	千台	200	200	200	200	200
			実績	190	203	196	207	
			達成率	%	101.5%	98.0%	103.5%	
新臼杵港整備工事(1バース)の進捗率	= 累積事業費 ÷ 総事業費 * 100	目標	%	70	78	86	95	100.0
			実績	70.0	69.0	76	79	93.0
			達成率	%	98.6%	97.4%	91.9%	
		目標						
			実績					
			達成率	%				
		目標						
			実績					
			達成率	%				
		目標						
			実績					
			達成率	%				
		目標						
			実績					
			達成率	%				

指標の分析

フェリーの乗降車の年間台数は、平成25年度から200千台以上を維持してきましたが、平成28年度については熊本地震の影響により減少しています。  
事業進捗の達成率については、国庫補助の割当てや自然条件により大きく左右されますが、ほぼ目標値で推移しています。

<市民意識調査結果>

	領域名	必要度	満足度	
市民意識調査結果 (H29調査)	検討領域	2.09	1.39	
市民意識調査結果分析	<p>・平成29年度実施のアンケート結果では、「必要度」「満足度」とともに低く、「検討領域」に位置しており、施策や事業の内容について再考の余地があります。</p> <p>必要度や満足度が低いことから、本来は事業内容の見直しとなりますが、新臼杵港整備は地方港湾として、県事業であるとともに四国と九州間の基幹的な交通であるため、本市民の評価により決定できません。しかしながら、整備にあたっては、新フェリー埠頭背後地の緑地等を本市の活性化につなげられるような整備内容とするよう、関係団体及び自治会代表者等の意見集約を図り県へ要望する予定です。</p>			

<次年度以降の課題>

平成30年度以降の課題	<p>新埠頭の供用開始に合わせて、短期の取り組みとして県道臼杵津久見線の改良工事を行うこととしていますが、新埠頭から発生する通過交通への対応としては、マスタープラン改定や道路網見直し協議の中で、中期的・長期的な視点から既設路線改良もしくは新規路線の検討を行っていきます。</p> <p>また、港湾の背後地の整備や有効活用については、新臼杵港活用推進協議会で早期に検討し、大分県へ整備内容の要望を行うと同時に、官民連携した取り組みが必要と考えます。</p>
-------------	---

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課 ※実施した課を記入	課の重点 ※運営計画記載	事業費（単位：千円）			課長評価	公共5カ年	他の関連施策コード
				H28年度実績	H29年度実績	H30年度見込み			
1	臼杵港 港湾改修工事 県工事負担金	都市デザイン課		112,882	83,213	121,500	継続	○	
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
合計				112,882	83,213	121,500			

<施策の今後の展開 ～担当課長評価>

進捗状況	課長評価
<p>順調</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾アクセス道路の整備については、供用開始までの短期的な対策は予定されていますが、中長期的な視点では都市計画マスタープランに記載している構想路線他の道路についても、引き続き県と協議する必要があります。</li> <li>・港湾の活用については、市民検討会の意見を参考にしながら、平成29年度に立ち上げた「新臼杵港活用推進協議会」でハード・ソフトの両面から協議を進め、本市の発展や活力に資する港づくりに県と連携して取り組んでいく必要があります。</li> </ul>	<p>目標を達するため、現状維持とする</p>

<施策の今後の展開 ～内部評価（内部検討会）>

進捗状況	内部評価
-	-

<臼杵市行財政活性化推進委員会による外部評価：最終>

評価のコメント	外部評価
	-

<臼杵市行財政活性化推進委員会を受けての市の取組>

--